



BUSINESS

鉄道車両復旧・脱線復旧工事

RAILWAY ROLLING STOCK RECOVERY

列車は、止まっている時間そのものが損失になります。

脱線・転覆した機関車や貨車を、一日でも早く、安全に線路へ戻す。

当社は、被災現場の確認から復旧計画の立案、大型クレーン・資機材の手配、支障物の撤去、コンテナの取卸し、貨車の現地解体、対象物撤去、そして電気機関車の引き起こし・復線、掘削箇所の原状回復までを一貫して担う、鉄道車両の現地復旧工事を行っています。鉄道貨物輸送の現場を長年支えてきた知見と、発注者・協力会社との密な現地協議により、限られた時間のなかで最短・最善の復旧手順を組み立てます。

当社の強み

OUR STRENGTHS



STRENGTH 01

一報から動く 緊急対応体制

現地確認の翌日には220t吊クレーンをトレーラー4台で県外から搬入。調査・計画・機材手配を並行させ、着手までの時間を圧縮します。



STRENGTH 02

百トン級を起こす 多点吊りの技術

電気機関車は1両で百トン規模。220t吊クレーン2台と70t吊クレーンによる多点吊りで、車軸ごとに荷重を分散させながら車体を起こします。



STRENGTH 03

現地で決める 段取り力

倒れた車体の下にスリングをどう通すか。重機はどこから入れるか。答えは現場にしかありません。常駐して発注者と協議しながら工法を決めます。

※横転防止の手配をとり、安全に配慮のうえ作業にあたっています。

復旧作業の流れ

WORK FLOW

STEP

01

現地確認・被災状況の把握

発災を受けて現地へ赴き、車両の転覆状況、積載コンテナ、軌道・架線・構造物への影響を記録します。何両が、どの向きに、どこまで壊れているのか。ここがすべての起点です。



STEP

02

復旧計画の立案・関係者との協議

吊り上げ順序、玉掛け方法、退避位置までを手順に落とし込み、毎朝の作業前ミーティングで全作業員と共有。作業時間の延長も、その都度、駅長・発注者の承認を得て進めます。



STEP

03

大型クレーンの搬入・組立

220t吊クレーン2台を、トレーラー計8台に分けて県外から搬入。現地で70t吊クレーンを使って組み立てます。復旧の規模に見合った機材を、いかに早く現場に立ち上げるかが工程を左右します。



STEP

04

支障物の撤去・進入路と地盤の確保

クレーンが入れば、復旧は始まりません。仮設ハウスの移設、構内建屋の解体、路盤の整正、横倒しコンテナの移動まで、作業空間そのものをつくります。



STEP
05

コンテナの取卸し・積荷の転送

まず車両を軽くします。転覆したコンテナを起こして仮置きし、荷主様の積荷を安全に転送。他社所有のコンテナについては、所有者の意向を確認したうえで取り扱います。



STEP
06

貨車の現地解体・搬出

復旧が困難な貨車は、現地で解体します。ガス切断で車体上部を切り離し、台車・輪軸を取り外して台枠まで分解。搬出可能な単位に落とし込み、線路脇を空けていきます。



STEP
07

電気機関車の引き起こし・復線

この工事の山場です。パンタグラフを撤去し、前部にスリングと天秤を取り付けて仮吊り。発注者車両部の立会・指示のもと、220t吊クレーン2台で1軸・2軸と5軸・6軸を吊り、残る3軸・4軸は70t吊クレーン1台で吊る。軸ごとに手を変えながら、車輪をレールへ戻します。



STEP
08

原状回復と、線路の引き渡し

解体材やガラを搬出し、スリングを通すために掘削した箇所を埋め戻す。軌道・路盤に支障がないことを確認して、線路を現状に戻します。



対応可能な作業

SERVICE MENU

▶ 脱線・転覆車両の復旧（電気機関車／コンテナ車／その他貨車）

▶ 大型クレーンの手配・搬入・現地組立

▶ コンテナの取卸し・引き起こし・仮置き・積荷の転送

▶ 軌道・路盤の応急復旧、掘削箇所の原状回復

▶ 多点吊りによる車両の引き起こし・復線

▶ 車体・台車・輪軸の吊り上げ、現地解体（ガス切断）、搬出

▶ 支障物・対象物の撤去、進入路の確保、路盤の整正

▶ 復旧資機材の調達・リース、発生材の運搬および適正処理

施工事例

CASE STUDY

八代駅構内 機関車・貨車 復旧工事

件名	八代駅構内 機関車・貨車 復旧工事 (地震による脱線・転覆車両の復旧)
場所	熊本県八代市／八代駅構内
期間	被災：2026年7月28日 現地確認：8月10日／作業完了：8月17日 機関車の復線：8月15日（現地確認から6日目）
対象車両	電気機関車 1両／貨車 5両 (コキ104系・107系／積載コンテナ23個)
主な作業	現地確認／大型クレーン搬入・組立／支障物撤去・路盤整正／コンテナ取卸し・積荷転送／貨車の現地解体・搬出／電気機関車の引き起こし・復線／掘削箇所の復旧
主要機材	220t吊クレーン2台、70t吊クレーン1台、35t吊クレーン1台、吊り具(30t) 4個、天秤・スリンガー式、ガス切断機、バックホウ



安全への取り組み

SAFETY

復旧の現場は、通常の工事とは条件が異なります。倒れた車両はどこに重心があるか分からず、架線や隣接線が近く、しかも今回のように余震が続くこともあります。

当社の現場では、毎朝の作業前ミーティングで当日の手順と退避位置を全員で共有し、地震を感じたら**まず手を止めて安全確認**を行います（本工事では震度3・震度4の余震により2度作業を中断しました）。猛暑下では、負荷の高いガス切断作業を午前中に限定するなど、工程そのものを組み替えます。

復旧を急ぐことと、安全を削ることは違う。本工事では、期間中の人身災害・第三者物損はゼロでした。

緊急復旧のご相談・平常時の体制づくりについて

事故・災害発生時のご連絡はもちろん、復旧資機材の備蓄や訓練のご相談も承ります。